

熊本県立第二高等学校 平成27年度学校評価表

1 学校教育目標
本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざす。

2 本年度の重点目標
(1) 学力の向上～生徒が楽しみにする授業展開、読解力・論理的思考力の育成、自学力の育成
(2) 個性の伸長～部活動・生徒会活動の活性化
(3) 豊かな心の育成～規則正しい日常生活の励行、礼節指導の徹底、読書活動・学校行事の充実、体験活動・ボランティア活動の充実
(4) 国際感覚の育成～グローバルな人材交流の促進、語学運用能力の育成と機会の増設
(5) 人権意識の高揚～人権教育の徹底、一人一人を大切にした教育の充実
(6) 理数教育の充実～文部科学省指定のSSHの全校体制の更なる推進と継続指定に向けた準備、科学的創造力・独創力・探究心を身につけるためのカリキュラム・指導法の研究、本県中核拠点校としての在り方についての研究

Table with 5 columns: 評価項目 (Evaluation Item), 評価の観点 (Evaluation Perspective), 具体的目標 (Specific Goals), 具体的方策 (Specific Strategies), 評価 (Evaluation), 成果と課題 (Achievements and Issues). Rows include categories like 学校経営 (School Management), 学力向上 (Academic Improvement), and 生徒指導 (Student Guidance).

4 学校関係者評価
学校関係者評価委員会の総括
○生徒や卒業生からは、第二高校生であることの誇りが感じられる。それが伝統となり、毎年すばらしい実績となって現れている。それは生徒及び保護者の学校評価アンケートの結果からも窺える。進学面では、強いとあげれば更なる質の向上を期待したい。また校内の各分掌が生徒のたぐいに対する組織的に活動していることも多かった。その先生方にも相当のストレスが掛かっているだろう。その点への配慮を管理職にはお願いしたい。
○近隣の中学生が目標とする高校であり、そういう高校が地域にあることが子ども達の頑張る原動力になる。今後は、近隣の小・中学校とも新たな連携を図ることにより、地域の子どもを一緒に育てていくことができるのではないだろうか。
○スマートフォンの使用などについても、中学校、小学校段階から使用が始まってきており、授業を超えた連携により、実態の把握に繋がりが効果的な指導が可能になるのではないかと。
○第二高校は高校時代「楽しかった」と思える学校で、卒業して「良かった」と思える学校だ。ボランティア委員会による企画・運営を中心とした活動は今後も積極的に推進して欲しい。
○高校に仕送るのではなく、保護者が家庭で第二高校にふさわしい子どもに育てることが必要である。そのために、PTAとして、学校の様子を更に詳細に伝えていきたい。

5 総合評価
本年度の重点目標6項目(「学力の向上」、「個性の伸長」、「豊かな心の育成」、「国際感覚の育成」、「人権意識の高揚」、「理数教育の充実」)について、上記のとおり自己評価、学校関係者評価からみると、その目標は概ね達成できている。学校関係者評価においては、学習指導、進路指導、生活指導を中心とした本校の教育活動全般について高評価を得た。2学期に実施している全ての生徒、保護者による自己評価、学校関係者評価では、昨年度までと同様に本校に対する生徒及び保護者の信頼や自負心の大きさを窺うことができる。それを端的に表すと「生徒は真剣に授業に取り組み、将来について考える機会を持ち、部活動や生徒会活動に励み、学校に誇りを持って日々を過ごしている」ということである。
今後も、生徒一人一人を大切に教育活動を積極的に推進し、教師、生徒、保護者、地域一丸となった「全人教育」を推進していく。

6 次年度への課題・改善方策
○地域の信頼に応えるために、本校の目指す知・徳・体の調和のとれた生徒像の実現に向けて、職員一人一人が更に自己研鑽に努める。
○生徒がこれまで以上に主体的に学び、学習習慣の確立を促す指導の充実を図るとともに、論理的思考力及び表現力等の育成を目指し、授業方法の改善をすすめていく。
○理数科・美術科において、それ以外の科学の発展に寄与する創造性豊かな人材・芸術文化の振興に寄与できる人材の育成を引き続き図っていく。
○生徒の安全・安心を守るために、スマートフォン使用については、生徒の自覚を促すと共に保護者や関係機関とも連携し、新たなルール作りを目指す。また交通面では生徒会が主体となった活動をおして自転車運転マナーの更なる向上を図る。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分